

令和7年3月3日

## 令和6年度 とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	江東区立大島幼稚園
所在地	江東区大島5-38-1

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

幼児が主体的に好奇心や探究心を高める活動の実現

<テーマの設定理由>

本園は日本語を母語としない幼児が多く在籍している。遊びや様々な活動においても、自分の思いやイメージを言葉だけでは伝えることが難しく、遊びやグループ活動の話し合いが深まらなかったり、幼児の主体的な遊びから現れる好奇心や探究心を十分に深められなかったりしていた。

本園の実態を踏まえ、幼児が主体的に活動する中で、より好奇心や探究心を引き出すことができるよう、年間を通して環境の設定及び保育の計画が必要と考えた。そのため、一人一人が夢中になって探究したことを伸び伸びと表現するとともに、伝え合う機会を見直し、好奇心や探究心を一層深められるよう、幼児の主体的な遊びから現れる好奇心や探究心を見取り、受け止め、より丁寧に遊びの環境の工夫や保育の立案を行うこととした。一人一人が好奇心や探究心をもって獲得したことを伸び伸びと表現したり、友達や教師に伝え合ったりする中で、継続的に幼児期における資質・能力を育むために、本テーマを設定した。

### 2. 活動スケジュール

本事業は年間を通して、月2回程度実施してきた。以下は、取り組んできた活動の抜粋である。

9月上旬 : 運動会に向けた取り組みにおいて、リズムの振り付けや互いが取り組む姿を見合ったり、互いに伝え合ったりしながら、伸び伸びと表現すること楽しむ。

11月上旬 : こども会に向けて、自分たちで劇遊びを進めていく面白さを味わう。

1月中旬 : 教師や友達と一緒に、遠足に出掛け、様々な感情体験を味わいながら、園での遊びに取り入れたり、経験を再現したりする楽しさを味わう。

2月上旬 : 今まで経験した製作や表現活動の中で、素材の特徴や遊びへの取り入れ方を生かし遊びを深めたり、広げたりして主体的な好奇心や探究心を深める。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

幼児の主体的な遊びから現れる好奇心や探究心をもって獲得したことを伸び伸びと表現したり、友達や教師に伝え合ったりする中で、継続的に幼児期における資質・能力を育むために、以下の保育用具等及び環境を準備した。

- ・ 翻訳機、デジタルカメラ  
遊びやグループ活動を実施する際に自分の思いやイメージを言葉や視覚で伝えられるために、保育室に幼児が自分で扱えるよう翻訳機やデジタルカメラを用意した。
- ・ 液晶ディスプレイ  
グループ活動や学級活動等の際、写真や動画などを投影し、学級で共有した。
- ・ ライトテーブル  
テーブルに様々な素材を写し出す中で、色や模様の美しさを味わう。色や模様の変化から、探究的に表現することを楽しむ。

### 4. 探究活動の実績

#### <活動の内容>

本事業を活用し、年間を通して一人一人が夢中になって探究したことを伸び伸びと表現するとともに、伝え合う機会を見直し、好奇心や探究心を一層深めていった。

探究活動の実績は、以下のとおりである。

- ・ 翻訳機、デジタルカメラ、液晶ディスプレイを活用した伝え合い、話し合い活動による主体的な探究活動の深まり。(運動会、こども会、遊園地ごっこ)
- ・ ライトテーブルを活用し、今まで親しんできた素材、色や模様の性質や面白さを再発見し、新たな表現や遊びを探究した。(影遊び、色遊び、模様や形の構成遊び)
- ・ 映像、記録写真を液晶ディスプレイに投影し、幼稚園の教育、幼児の学びや育ちについて、保護者、地域、近隣の就学全施設及び小学校への発信(保護者会、学級懇談会、評議員会等)

#### <活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

年間を通して一人一人が夢中になって探究したことを伸び伸びと表現していく中で、幼児が自身の思いや表現したことを教師や友達へ伝えたい気持ちが強くなった。教師が介入しなくても、翻訳機、デジタルカメラで互いの思いやイメージを伝え合いながら、主体的に遊びを深め、互いの表現や表現方法に気付き、受け入れ合う姿が見られた。「〇〇ちゃんに伝わった!」「もっと〇〇してみたい!」という幼児の声が多く出てきた。遊びや幼児たちの様子を写真・動画や翻訳機で保護者にも伝えることで、本園の教育、幼児たちの様子が一層伝わるようになった。

### <活動の様子>

活動の様子が分かる写真を2枚以上貼付してください。

(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)



### 5. 振り返り

本事業をとおして、幼児が主体的に活動する中で、より好奇心や探究心を引き出すことができるよう、これまで以上により丁寧に年間を通して環境の設定及び保育の実践、見直しを行った。遊びや活動において、一見同じような体験をしているようにいても、一人一人の楽しんでいること、遊びや活動から受けた刺激は大きく異なっている。一人一人の思いや考え、表現したいことを教師が丁寧に受け止めることが、主体的な表現や、より一層の探究へとつながることが明らかになった。

今後も、幼児が主体的に好奇心や探究心を高める活動の充実が図られるように、教育活動を計画・実施していく。

以上